

ふるさとわかまちづくり

本徳自治区

「本徳町」の由来

本徳町は籠川上流域にあり、北西部に猿投山が鎮座します。山麓には数多くの溜池もあり、自然環境・伝統・文化等の農林環境を保全しながら発展してきました。

歴史的には文禄4年(1595)秀吉の朱印状によって全村を雲興寺領(瀬戸市赤津)とされました。

全村を寺領とされているのは市域では、当村と猿投神社領猿投村と妙昌寺領梁山だけでありました。

その後、慶長7年(1602)家康の朱印状でも寺領となっており、その後、明治に至るまで代々、將軍の朱印状を与えられていました。寛政9年(1797)の論所1件記録によると、加納村、乙部村との地境論争があり、稲や蕎麦、麦の刈り取りまで発展したこともあったそうです。

民謡に

「娘やるなよ本徳村へ、お寺百姓で殿がない」と他村から歌われ、また、猿投神社の祭礼に尾張藩の提灯を掲げ、近隣48ヶ村が集まるほど盛大でしたが、当区は常に上座を占めていたことを誇りにしていました。



雲興寺燈籠



自治区の概要

当区は戸数51戸と小さなまちです。山林、原野が区内の約80%と多いのですが、田畑は、比較的平地にあり、まち中を清らかな本徳川が流れ、上ヶ根山のこぼれるばかりの緑が家々の軒先にまで溢れています。

自治区の近況

平成17年度より、自治区に「まちづくり委員会」を発足して本格的に活動を開始しました。当初の計画では、自然に囲まれた静かな田舎町であるため、本徳川流域に散策路の実現と溜め池の景観を利用して、平沢地区に“マレットゴルフ場”を作ろうと、わくわく事業計画に応募し推進してきました。



マレットゴルフ場建設 地鎮祭



本徳町のまちづくり

まちづくり基本理念

「人と自然が共に支えあう緑のまちづくり」

まちづくり基本目標

豊かな自然環境を守り、生態系の生息環境を守る。
自然とふれあい、人々の交流と健康づくり。
ふるさとを感じる美しい本徳町の景観づくり。
安全・安心で快適な生活空間づくりにしましょう。

自治区の課題

まちづくりとは何でしょう？それは、「その町」らしさの磨き上げと生活の改善だと考えています。本徳町は多くの有形無形の資源に恵まれた素晴らしい町だと思います。住んでいる人がそれを認識し、本徳町らしさを輝かせることができ



マレットゴルフ場建設作業



るようになると良いと思います。

地域の課題を解決するため、わくわく事業を活用して、本徳町の良さと問題点を認識し、まちづくり活動を継続していく必要があるのではないのでしょうか。

本徳町自治区データ

(H19.4 現在)

設立：昭和42年
世帯数：51世帯
：41世帯(昭和51年)
組数：5組
面積：1.48Km²
自治区たより：「上ヶ根」
回覧：月2回
ちびっ子広場：1箇所
防犯灯設置箇所：21箇所
小学校：加納小学校区
自治区会館：本徳町構造改善センター